

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4097900015		
法人名	医療法人 松本医院		
事業所名	グループホーム 朝日苑		
所在地 (電話番号)	福岡県三潴郡大木町大藪 186 - 1 (電話) 0944 - 75 - 8520		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成19年6月26日	評価確定日	平成19年8月1日

【情報提供票より】(19年 5月 28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15 人, 非常勤 人, 常勤換算 15 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(5月 28日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護 1	3 名	要介護 2	6 名		
要介護 3	5 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	名		要支援 2	3 名	
年齢	平均 84.5 歳	最低	57 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	横山外科医院 長田病院 おおかわメンタルクリニック 藤丸歯科医院 安本病院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体は医院であるが、医療とは違う観点から1対1でご老人の方を支援したいという思いでホームを開設された。入居者の尊厳をまもり、安全にそして安心を分かち合えるよう常に前向きに知恵と努力を忘れないという理念のもとに、施設長・管理者はもとより職員全員が、入居者が「ふつう」の生活を過ごせるようケアにあたっている。2ユニットであるが、それぞれに個性があり一方は「静」もう一方は「動」である。入居者のそれぞれの性格を配慮し各ユニットに入居され、個性を活かし生活を楽しめるように配慮されている。ホームの周りは田園に囲まれており、麦の色づきや田植えの風景など四季を感じることができる。また、ホームのリビング・廊下等は天井が高く、天窓よりの自然彩光で余計な刺激がなく、開放的である。併設の小規模多機能型居宅事業所とともに地域で入居者が心地よく暮らせるよう地域に根ざしたホームを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>初回の為、前回評価なし。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義・目的に関しては、施設長・管理者・職員は理解しているが、職員全体で評価の一連の過程に参加しているわけではない。現状の把握・分析、問題点・課題の抽出、改善計画の作成・具体化という一連の過程を全員参加で行なうことにより、意識あわせ、一体感を持つことができ、最大の効果をあげることができる。今後、施設長・管理者・職員全員で自己評価に取り組むことが望まれる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、現状報告や前回の課題にあがった項目の結果報告、行事予定の報告等が行なわれている。ほぼ2ヶ月に1回開催され、参加者は町の職員・家族の代表・地域住民・社会福祉士などが参加されている。参加者からは意見・質問・要望がだされ、それを取り入れ検討することにより、今後のサービスの向上に役立てようとする意気込みが感じられる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>面会時・運営推進会議の場や意見箱などを設置し、積極的に家族の意見・苦情等を把握するようにしている。出された意見に対しては、ミーティングや全体会議で検討され、結果は家族に報告すると同時に運営にも反映するようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の区長さん・民生委員さん・町の職員さんとは連絡をと交流を深めようとしている。月の行事には近隣の保育園・小学校などを招いたり、お正月の餅つき大会や秋祭りなどに参加し積極的に地域に溶け込むようとしている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	入居者が地域で安全で安心してその人らしく生活できるよう 入居者の「尊厳」を守り「安全」を確かめ、「安心」を分かち合える喜びを教えてくださいました入居者に感謝するという理念をつくっている。		
2	2	x 理念の共有と日々の取り組み	玄関はもとより 各ユニットの壁には職員手書きの理念が掲げられている。同時に理念に基づく「今日の目標」が書かれ実践されている。また、理念は毎朝唱和され、職員は理念の実践のために毎日のケアにあつたている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の保育園や小学校との交流があり訪問してもらっている。お正月には餅つき大会、秋には町の祭りに参加したり地元の人との交流を図っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は主に管理者によって検討 作成されており 職員に対しては何かあれば意見を述べてもらうことにとどまっている。職員は自己評価および外部評価の意義や目標を理解しているが、自己評価の一連の過程には全員で参加するまでには至っていない。	○	評価は運営者・管理者はもとより 職員全員がその意義・目的を理解し、事業所全体で取り込むことにより最大の効果を得ることができる。評価の一連の過程を全員でおこなうことにより 意識あわせ、一体感を持って今後の改善にあたることができる。今回の改善課題の内容および具体的な改善方法・スケジュールについては施設長・管理者・全職員で会議を持ち、その中で検討することが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	18年9月よりほぼ2ヶ月に1回のペースで開催されている。参加者は町の職員・家族の代表・地域住民・社会福祉士等が出席される。現状報告、前回課題にあがった項目についての対応の説明、行事予定の報告等が行なわれ参加者からの意見・質問・要望もだされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談事があれば、市町村の担当者らと連絡を取ったり訪問したりしている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度等を利用されるケースが今まで無い為か、研修の受講やパンフレットの準備がされておらず、管理者・職員とも必要な時に誰でも説明できる体制となっていない。	○	利用者および家族が必要な時に、説明し相談にのり関係機関に橋渡しができるような支援体制が必要となる。管理者のみならず職員は成年後見制度および権利擁護事業を理解し必要としている方に説明できるよう研修を受講するとともにパンフレット等を事業所内に常備することが望まれる。
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	最近ホーム便りを創刊し、今後2ヶ月に1回発行し家族に日常の様子を伝えるようにしている。通常は面会時にお話しをし報告しており、急を要する場合は電話連絡を行なっている。金銭管理については出納帳をつけ、家族には報告を行なっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時はもとより意見箱の設置や運営推進会議にて積極的に意見を聞くようにしている。出された意見に対してはミーティングや会議等で検討し、反映するようにしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動及び離職時は必ず新しいスタッフをつけ、入居者と馴染むよう配慮しながら時間をかけ引継ぎを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢等によって採用を左右することはない。その人の人柄、熱意などを考慮し採用にあっている。管理者はなるべく意見を述べやすい雰囲気をつくるようにし、意見は施設長にあがるようにしている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月1回の全体会議にて入居者の接し方について、施設長より日々話がある。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受講した場合は全体会議で発表し伝達を行っているが、特に年間計画の中に研修を位置づけ計画的に受講しているわけではない。	○	職員の常勤・非常勤に関わらず、その人の経験年数・認知症介護の理解や習熟度に応じた事業所としての研修計画が必要となる。外部研修・内部研修を問わず、その人の段階に応じた研修を年間計画の中に位置づけ、受講することが望まれる。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの地域密着型サービス連絡協議会に参加しているが、開催頻度としては少ない。特に地域の同業者との会議や勉強会は行なわれていない。	○	地域の同業者とのネットワークづくり・勉強会、相互評価などを通し事業所の質をお互いに高めることができる。また、職員同士の交流ができることにより仕事の悩みの解消、緊急時の連携をとることができ地域全体のサービスの向上をはかることができる。地域の同業事業者へ働きかけを行い、勉強会や見学会などを開催し交流を深めてはいかがるか。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人・家族と面談し入居日の調整をおこなない本人がスムーズに入居できるよう調整をおこなっている。また、事前の見学にも対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり 支えあう関係を築いている	常に会話するように心がけ、不満や昔の話を聞くようにしている。職員は入居者を人生の先輩として接しており、入居者の言葉に傾聴しお互いに尊敬しあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを実施しており、本人の思いや暮らしの意向を全員で把握するようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族より常々情報収集につとめ、その情報を持ち寄り会議にかけ、本人の思いや意向を計画に反映するようにしている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは3ヶ月に1回行い、状態の変化があった場合その都度計画の変更を行なっている。会議を開催し、計画の遂行状況や効果の評価・要望などについて話し合い、計画に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の医院より海朝往診に来てもらっている。他医療機関への受診は基本的には家族がつれていくが、希望があれば職員が送迎の対応をしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には母体の医院の受診であるが、希望があれば利用前からのかかりつけ医に受診をしてもらっている。提携の医療機関も複数あり緊密な関係を結んでいる。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化 終末期の対応は本人・家族の意向を第一とし対応している。職員 医師 看護師と連携をとり対応している。今までもホームでの看取りを本人 家族とも希望された方がしづかな最期を迎えられた。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけは穏やかであり 人生の先輩として尊敬の念をもって接している。不適切な言葉遣いがあった場合は、その都度注意するようにしている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、入所者が今日どのように過ごしたいか、何をしたいかを会話や表情から読み取るようにし、身体の状態や希望を考慮し柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理主任がおられ入居者の希望や好みを聞き、献立に取り入れている。職員は入居者とテーブルを同じにし、談笑しながらもさりげなくサポートし食事を行なっている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望にあわせ入浴できるよう曜日や時間帯の制限は行なっていない。希望があれば夜間帯の入浴にも対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ぬい絵や貼り絵、洗濯物干しや取り込み、たたみなど、入居者の得意ごと、生活歴を生かした役割をしてもるようにしている。特に貼り絵はひとつのテーマを持ち、入居者全員で取り組んでいる。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1度の食事や季節の花見、ドライブなどには行っているが、日常の散歩や買い物等外出の機会が少ない。	○	日常の外出については、職員の人数の関係で対応できない面もあるが、外出しないことによる影響(周辺症状の憎悪や体調不良)を考慮しなければならない。また、職員のストレス発散のためにも必要となる。入居者及び職員の気分転換・ストレス発散・五感刺激のため、短時間でも屋外へ外出する機会をつくり、対応することが求められる。
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室には鍵はかけていない。職員は見守りを行い、入居者が外出される場合は、声かけを行いしばらくの間、一緒に散歩をしたりしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いのもと避難訓練や消火器の扱い方の訓練を行なっている。夜間想定訓練や地域の人々の参加の避難訓練は行なわれていない。	○	昼夜を問わず災害は発生すること、および職員だけの誘導では限界があることを認識し、避難訓練を行なうことが重要となる。いざというときは地域の人々の協力が不可欠となるので、自治会や運営推進会議を通じて、協力体制の確立や、実際の避難訓練の参加協力してもらうことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はチェック表に記入され管理されている。水分摂取量については一定量摂取するよう管理をしている。栄養バランスやカロリーについては栄養士などから特に専門的なアドバイスをもらっているわけではない。	○	入居者のカロリーの過不足や栄養の偏りが無いかを配慮し支援していくことが必要となる。定期的に、栄養の専門的な立場より献立内容をチェックもらっては如何だろうか。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・廊下等は天井が高く自然彩光が入り明るく開放的である。トイレ・浴室も広く、全体的に閉塞感を感じさせないつくりとなっており入居者は居心地良さをうに過ごされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や調度が持ち込まれており壁には自作のぬい絵や自分の好みの物が飾られている。それぞれの部屋は個性的であり入居者は居心地よく過ごすことができる。		